ふくしまから
はじめよう。
Future From Fukushima.

福島県土木部

記者発表資料７枚

平成２９年１２月２６日
福島県土木部建築住宅課

第３４回福島県建築文化賞　受賞作品発表

地域の周辺環境に調和し、景観上優れている建築物等を表彰する第３４回福島県建築文化賞の受賞作品が下記のとおり決定しました。

表彰式を平成３０年１月２２日（月）に杉妻会館（福島市）で行い、福島県知事などから受賞作品の関係者に賞状等が授与されます。

◆受賞作品

【正　　賞】（１点）	・あぶくま更生園
【準　　賞】（１点）	・宮畑遺跡史跡公園　体験学習施設（じょいもん）
【優秀賞】（３点）	・国見町庁舎
（順不同）	・北会津こどもの村幼保園
	・BLUE　MUG　COFFEE
【特別部門賞】（３点）	・曙ブレーキ福島製造株式会社　桃苑寮
（順不同）	・喜多方市立熊倉小学校体育館
	・福島県買取型復興公営住宅　関船団地
【復興賞】（３点）	・飯舘村災害公営住宅飯野町団地
（順不同）	・KIK‘B
	・矢吹町営　中町第一災害公営住宅

※各受賞作品の詳細は別紙を御覧ください。

◆主催

福島県、(株)福島民報社、（一社）福島県建設業協会、（公社）福島県建築士会

◆その他

総評・講評、受賞作品の写真は下記に掲載しています。

URL　http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/41065a/

【問い合わせ先】
福島県土木部建築住宅課　TEL024-521-7986　内線 3696
主幹　渡邉　佳文（ﾜﾀﾅﾍﾞ　ﾖｼﾌﾐ）　FAX024-521-7955

■第34回　福島県建築文化賞　受賞作品一覧表

賞名	建築物の名称	用途	建築主	設計者	施工者
正賞	あぶくま更生園 【田村市】	指定障がい者 支援施設	社会福祉法人福島県福祉事業協会	(株)シーラカンスアンドアソシエイツ	鹿島建設(株)東北支店
準賞	宮畑遺跡史跡公園　体験学習施設 (じょいもん) 【福島市】	博物館	福島市	大建設計・鈴木設計　設計共同体＋ (株)古市徹雄都市建築研究所	(株)安藤組
優秀賞	国見町庁舎 【国見町】	庁舎	国見町	福島県国見町庁舎建設実施設計共同企業体【(株)ジェイアール東日本建築設計事務所＋(株)田畑建築設計事務所】	安藤・間　安藤組　佐久間工業特定建設工事共同企業体
	北会津こどもの村幼保園 【会津若松市】	認定こども園	学校法人白梅	(有)松鹿設計製作所	田中建設工業(株)
	BLUE MUG COFFEE 【いわき市】	事務所併用 飲食店	(株)いわきエアコン	(有)ハコプラスデザイン	(有)ハコプラスデザイン
特別部門賞	曙ブレーキ福島製造株式会社　桃苑寮 【桑折町】	寄宿舎	曙ブレーキ工業(株)	基本設計：(株)プランテック総合計画事務所 実施設計：(株)亀岡工務店＋(株)設計室NOAH	(株)亀岡工務店
	喜多方市立熊倉小学校体育館 【喜多方市】	体育館	喜多方市	(株)創ライフ研究室	樫内建設工業(株)
	福島県買取型復興公営住宅 関船団地 【いわき市】	公営住宅	福島県	(有)辺見美津男設計室	藤田建設工業(株)
復興賞	飯舘村災害公営住宅飯野町団地 【福島市】	公営住宅	飯舘村	(株)邑建築事務所	(株)英工務店
	KIK'B 【郡山市】	物販店舗・ 飲食店	(有)菊屋茶舗	(有)阿部直人建築研究所	光建工業(株)
	矢吹町営　中町第一災害公営住宅 【矢吹町】	公営住宅	矢吹町	(株)スタジオ・クハラ・ヤギ	髙田工業(株)

(優秀賞、特別部門賞及び復興賞については順不同)

第３４回福島県建築文化賞　受賞作品

正　　賞

あぶくま更生園

準　　賞

宮畑遺跡史跡公園　体験学習施設
（じょいもん）

優　秀　賞

国見町庁舎

北会津こどもの村幼保園

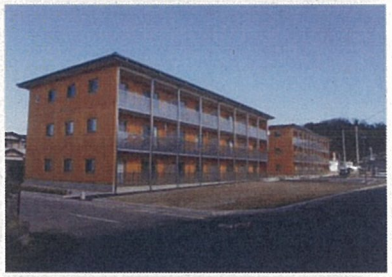
ＢＬＵＥ　ＭＵＧ　ＣＯＦＦＥＥ

特別部門賞

曙ブレーキ福島製造株式会社
桃苑寮

喜多方市立
熊倉小学校
体育館

樹齢約 100 年程度の集成材で大空間を構成



福島県買取型復興公営住宅
関船団地

復　興　賞

飯舘村災害公営住宅飯野町団地

ＫＩＫ‘Ｂ

矢吹町営　中町第一災害公営住宅

第３４回 福島県建築文化賞　総評

福島県建築文化賞は、東日本大震災による２年間の中断を挟み、本年で３４回目を迎えた。

今回の応募作品は６２点で、うち公共建築物が３５点、民間建築物が２７点であった。用途別では、福祉・医療施設等が１４点と最も多く、次いで庁舎・事務所等１０点、学校教育施設、文化・スポーツ施設が各９点、共同住宅が８点、工場等、複合施設、建築物群又は建築物等が各３点、商業施設等が２点、古い建築物の修復が１点であった。地域別では、浜通り１４点、中通り３１点、会津１７点となっている。公共建築物が過半数を占める一方、民間の福祉・医療施設や東日本大震災からの復興を目指す災害公営住宅が多かったことが特色としてあげられる。

一次審査は８月１７日に、書面により現地審査対象作品の選考を公開で行った。始めに賞の趣旨、意義を再確認した後、各審査委員が会場に用意された応募書類、図面、写真をもとに評価を行った。審議においては、全員が全体的な評価や感想を述べた上、各委員１１点以内で候補作品を投票した。その結果をもとに、多くの票を集めた作品、及び少数であっても評価すべき点について明確な理由と共に推薦のあった作品を対象に議論を重ねた。その結果、現地審査対象とする１６点を全会一致で選定した。

二次審査は１０月２３日から２５日まで３日間にわたり、一次審査で選定された１６点について現地審査を実施した。各審査委員は、周辺環境との調和、建築物のデザイン・機能性、東日本大震災からの復興に対する貢献など、賞の基準に照らして多角的な視点から評価を行い、正賞、準賞、優秀賞候補として５点、特別部門賞候補として３点、復興賞候補として３点を選んで投票し、その評価理由と全作品についてのコメントと共に提出した。

最終審査は１１月１３日に全審査委員出席のもとで行われた。全員が現地視察を通した印象と評価の観点について述べた後、授賞作品の選考に移り、事前の投票の集計結果と各審査委員による推薦作品の評価理由をもとに意見交換を行った。

評価が拮抗して、困難な選考となったが、最終的に合議により全会一致で下記のとおり、正賞１点、準賞１点、優秀賞３点、特別部門賞３点、復興賞３点が選定された。

以下に各賞の選定理由を示す。詳しくは受賞作品ごとの講評を参照されたい。

正賞の**『あぶくま更生園』**は、知的障がいを持つ人々の生活実態について理解した上で、様々な空間要素を組み合わせ、短工期の中で地場産材を巧みに用いて、明るく変化のある空間が実現されている。居室をユニット配置して施設的な雰囲気をなくすと共に、視覚的な一体感をもたせ、従来の障がい者施設のイメージを払拭した建築となっている。

準賞の**『宮畑遺跡史跡公園　体験学習施設（じょいもん）』**は、公園と建物を一体にとらえ、遠望する吾妻連峰まで取り込んだ配置により、太古に思いを馳せる場が生み出されている。エントランスホールの縄文土器をモチーフとした逆六角錐の繰り返しによる木造立体トラスの屋根架構が印象的で、難度の高い設計に施工者も応え、密度の濃い建築が実現されている。

優秀賞には、**『国見町庁舎』**、**『北会津こどもの村幼保園』**、『BLUE MUG COFFEE』の３点が選ばれた。

『国見町庁舎』は、鉄骨と集成材のハイブリッド部材により、庁舎に求められる大スパンの空間と利用者に優しい木の空間が両立しており、コンパクトな平面形でありながら豊かさが感じられる。外部の木のルーバーとボックス型バルコニーが新しい景観を生み出し、来庁者を迎え入れている。

『北会津こどもの村幼保園』は、周囲の風景を取り込み、遊びや交流の場となる円形の屋内広場を囲んで、家型の色とりどりの屋根をもつ保育室が配置され、木を生かした内部空間と幼保園を構成する個々のスペースについてのアイデアにより、文字通り子供の世界を創り上げている。

『BLUE MUG COFFEE』は、前面道路のカーブに面して雑木林を設け、印象的な建物の形態と相まって、街並みに対するアクセントとなっている。緑に面したテラスと、木や石等の素材を生かし手作り感にあふれた居心地よい内部空間が、豊かな時間を過ごせる場を地域に提供すると同時に、建て主の建築にかけた夢を実現している。

特別部門賞には、**『曙ブレーキ福島製造株式会社　桃苑寮』**、**『喜多方市立熊倉小学校体育館』**、**『福島県買取型復興公営住宅　関船団地』**の３点が選ばれた。

『曙ブレーキ福島製造株式会社　桃苑寮』は、女性たちが学びながら働き、共に過ごす場として、女性による計画・設計・施工チームで検討が重ねられ、間仕切りを閉じれば講義室となるホールや吹き抜け階段ホールを中心に、明るく一体感のある寮生活空間が生み出されている。

『喜多方市立熊倉小学校』は、地場産の８寸角の杉材２００本を製材として用い、木造ならではの架構の繰り返しにより、内外ともリズム感のある空間・形態が、工期・工費等の厳しい条件のもと、地域の製材所・大工の力を集めて実現されている。

『福島県買取型復興公営住宅　関船団地』は、コスト・工期が厳しい買取型復興公営住宅の設計・建設において、県産材を使用し、地域の製材・建設能力を生かすことにより、WOOD.ALC による県内初の木表し３階建て公営住宅を、４か月という超短工期で完成させ、公営住宅計画の新たな可能性を示している。

復興賞には、**『飯舘村災害公営住宅飯野町団地』**、**『KIK‘B』**、**『矢吹町営‘中町第一災害公営住宅』**の３点が選ばれた。

『飯舘村災害公営住宅飯野町団地』は、将来ビジョンをもとに子育て世帯を主対象とした災害公営住宅である。戸建てと長屋形式の住戸が広場を囲む配置とその中央に設けた集会施設が居住者同士、周辺住民との交流を可能にしている。集会施設が子供の居場所として木造で居心地よく計画されていることも特筆できる。

『KIK‘B』は、被災により活気を失っていた郡山駅前大通りを活性化するために、１階は

レンガタイル、２階は木製ルーバーのファサードによる連続的な街並みを新たに創り出している。店舗群の中に賑わいや活動を生み出すスペースを確保し、まちづくりの核となる一画を実現している。

『矢吹町営　中町第一災害公営住宅』は、とおり庭やリビングアクセスにより交流を生み出す配置、木材を活用して多様な住戸平面の組み合わせや変化のある立面構成等、挑戦的な姿勢で新たな公営住宅の可能性を示している。被災して歯抜けになった旧奥州街道沿いの街並み再生の起点となることが期待される計画である。

惜しくも選外となった作品にも、本賞の趣旨に照らしてそれぞれ見どころがあった。

『王子コンテナー株式会社　福島工場』は、工場のイメージを破り、大きなガラス面で開放的な姿を前面の植栽と合わせ、地域に対する顔を創り出している。

『郡山市立中央公民館・郡山市勤労青少年ホーム』は、隣接する郡山公会堂のファサードの意匠をホワイエの壁装に生かし、夜にはそれが木質空間の暖かい光の中に浮かび上がって街の魅力を高めている。

『ふくしま逢瀬ワイナリー』は、企業の復興支援によるワインの醸造施設に展示・集会機能が組み合わされ、端正な建築デザインと前庭と周囲の緑が調和した、人の集まる場を生み出している。

『希望ヶ丘プロジェクト』は、建築家の協働により、中庭を囲んで様々な木構造の仮設建築が計画され、コミュニティ再生や応急仮設住宅の部材の再利用など、多様な提案がなされている。

『坂下南幼稚園』は、構造材、床材、壁材、天井材に県産木材を採用し、平面的な広がりと程よいスケール感を持つ、木造ならではの居心地よい子供の空間となっている。

応募作品は、いずれも建築主、設計者、施工者の建築文化に対する理解と姿勢があって生み出されている。それぞれの地域の建築文化の発展に寄与すると共に、こうした積み重ねにより福島県全体の建築文化が形作られていくことが期待される。

現地審査では、構想や計画、施工段階に携わった担当者から、当時を振り返りながら、想いを込めて説明していただいた。例年、審査を通じて建築文化賞のあり方、賞を通じて建築文化として何を継承していくかということを考えさせられる。建築に携わった人々や地域の人たちの思いと努力の上に、建築が生まれ、技術が継承される。まちの景観が育ち、歴史が重なり、そうして建築文化が形成されていく。そのことが受賞作品を通じて多くの人々に共有されることを願っている。

最後に、今回応募いただいた関係者に対して、審査委員一同、深く敬意と謝意を表したい。

審査委員長　長澤　悟

第３４回 福島県建築文化賞　各作品賞　講評

正賞（１作品）

○　あぶくま更生園【田村市】

知的障がいを持つ人々が居住する施設として、入居者が安心して過ごせるよう、様々な空間要素を巧みに組み合わせ、ユニットに分節しながら視覚的連続性のある明るくゆとりのある生活空間が実現されている。入居者が自分の居場所を確保し、安心感を持ってパブリック・リビングに集まって過ごしている様子が見られる。

各ユニットは、緩やかなスカイラインをつくる傾斜屋根をもち、木造の架構がそのまま内部に表れて開放的な空間となっている。折り重なった屋根の隙間から光が入り、木製天井と地元の田村杉の柱や壁が内部空間に温かみを与えている。

従来の障がい者の施設的イメージから脱し、新たな可能性を示した作品として高く評価できる。

準賞（１作品）

○　宮畑遺跡史跡公園　体験学習施設（じょいもん）【福島市】

史跡公園と建築物が一体になった配置計画で、２階展望デッキからは公園越しに雄大な吾妻連峰が眺望でき、かつてここを居住地に選んだ縄文人と心がつながる思いにさせられる。

建物は木製天井の架構が印象的で、エントランスホールの縄文土器をモチーフにした逆６角錐の木造立体トラス、多目的ホールの不定形の木製格子梁表しなど、施工者の工夫と努力によって施工難度の高さを克服し、実現されている。随所に様々なデザイン・ボキャブラリーが散りばめられ、建物自体が来訪者に縄文時代へのイメージを膨らませる仕掛けとなっている。

この建築によって、宮畑遺跡史跡がこれまで以上に知られ、来訪者が増えることが期待される。

優秀賞（３作品）

○　国見町庁舎【国見町】

鉄骨と集成材のハイブリッド部材が庁舎の中央部に大きく展開している。町民が最もよく訪れるエリアにこれを多用することにより、木造のような落ち着いた空間づくりに成功している。外観の木製ルーバーと木を表したリフレッシュ・テラスとのコンビネーションが、周囲の新しい景観要素となっている。

構造材の他にも床・テラスに県産木材、家具には国見町産木材を使用し、イベント等にも使うことのできる中央吹抜にはアカマツ広場を設けるなど、コンパクトながら温かみが感じられる庁舎となっており、木材の活用の効果をよく示している。

○　北会津こどもの村幼保園【会津若松市】

美しい山並みと田園風景に囲まれた雄大な眺望を取り入れ、子供たちが毎日をのびのびと過ごすための様々な工夫が凝らされている。色とりどりの屋根を持つ保育室が周囲に配置された円形の大空間の中で、多くの園児が遊び、交流することができ、大きな家の中にいるような安心感とやすらぎを創出している。

内部、外部において一つの集落が表現され、地域と共存する認定こども園であることを感じさせる作品となっている。

○　BLUE MUG COFFEE【いわき市】

住宅や商店が建ち並ぶ道路のカーブ沿いに建ち、緑のテラスを構えるシンプルなデザインが街並みを変えるアクセントとして機能している。内部は、従業員や地域の人々による手作り感あふれる装飾と、建築主好みの大谷石や木材を利用した内装がよく調和し、居心地よい空間となっている。

建築に夢を求め、企業姿勢をそこに込めようとした建築主が、その思いを託せる設計者を探し求めるところから始まり、設計者がその思いを真に受け止めて、細部に至るまでアイデアを重ねた結晶として、建築文化に寄せる理解と工夫がここに凝縮されている。

特別部門賞（３作品）

○　曙ブレーキ福島製造株式会社　桃苑寮【桑折町】

働きながら学校に通い学ぶ勤労学生のための女子寮である。女性の社会進出を支援する企業の継続的な姿勢にまず敬意を表したい。

女性による計画・設計・施工チームで相互理解と意見交換が重ねられ、女性たちが共に生活し、学び、憩う場が創り上げられている。

外周部にスリット窓を持つ居室群が配置され、内部中央部のトップライトを有する明るいコモンスペースは、安心感のある居心地よい空間となっている。

○　喜多方市立熊倉小学校体育館【喜多方市】

市が供給する地場産材を用い、地域の製材所、工務店、大工の力を結集して作り上げられている。木材の調達・製材・加工・組立等、様々な職種が活躍しており、地域振興に大いに貢献し、地域経済の循環や技術の継承にも寄与している。

木造ならではの架構の繰り返しを生かし、内外ともリズム感のある空間・形態が、工期・工費の限られた条件のもとで実現されている。

本建物は学校体育館であるが、地場産材を生かし、地域の力で生み出される公共施設が、地域の人々にとってより大きな喜びと誇りをもって集えるものとなることを示している。

○　福島県買取型復興公営住宅　関船団地【いわき市】

コスト、工期が厳しく問われる買取型復興公営住宅の設計・建設において、県産材を生かし、鉄骨造と厚板集成材のハイブリッド構法により県内初の木表し３階建て公営住宅を実現したものである。避難者の居住の安定を最優先に、買取方式の整備手法や４か月という超短工期で完成させるための新工法の採用、県内初の WOOD.ALC の活用など、デザインビルドの特長が効果的に生かされている。設計者と施工者の協働の可能性や地域ビルダーの役割を総合的に示しており、地域に根差す企業としての姿勢は高く評価できる。

シンプルな外形であるが、木を表し、エントランス周りの金属のシャープなデザインと対比させることにより、木の温もりや和らぎの効果を感じさせる作品となっている。

復興賞（３作品）

○　飯舘村災害公営住宅飯野町団地【福島市】

原子力災害による避難者向けとして、最初に完成した災害公営住宅であり、将来を担うのは子供という信念の下、子供のいる世帯を対象に計画されている。個々の生活を尊重しつつ、戸建てと長屋形式の住戸が広場を囲んで玄関を向けるコモンアクセスの配置を採り、住民同士の日常の交流やイベント開催等を促すと共に、周辺との交流も生まれやすいよう意図している。

広場中央の集会所は、放課後や休日の子供の過ごし場所、親子や世代間の交流の場となるよう、木造の架構の中に様々な場が用意されている。

村長を始め関係者全員の、村民を守り故郷への帰還を願う強い思いが、細部のデザインに至るまで随所に感じられる。さらに、居住する村民が帰村した後は、住み心地の良い環境を福島市に残すということまで視野に入れている点も特筆できる。

○　KIK’B【郡山市】

東日本大震災や空き店舗の発生により活気を失っていた駅前大通りの復興に向け、５５ｍにわたる連続した街並みづくりを計画したものである。１階外装のレンガタイルと２階の木製ルーバーにより、レトロな雰囲気と親しみを感じさせる通りが生まれた。

テナント用スペースに加え、中央部に階段室を広げて設けた公共スペースや道行く人が足を止めるアルコーブなど、イベントや地域の活動となり、賑わいを創出するスペースが盛り込まれており、今後のまちづくりの取組みの起点となる役割が期待される。

○　矢吹町営　中町第一災害公営住宅【矢吹町】

災害公営住宅を被災した旧奥州街道沿いの街並み復興の核として位置付け、道路向かいの地区センターと呼応して計画されていることは高く評価できる。交流を生み出しやすいように、２棟を「とおり庭」を挟んで配置すると共に、リビング・アクセスの住戸計画としている。多様な平面・断面の住戸の組合せと集成材厚板パネルによる軒下空間により、変化に富む群造形を生み出しており、集合住宅の新たな可能性を示している。

今後、住み手の工夫が加わり、この公営住宅が町の顔となって賑わいある街並みが形成されていくことが期待される。

（※優秀賞、特別部門賞、復興賞については順不同）